

中小企業景況調査報告書

平成29年7～9月期実績

平成29年10～12月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。

調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

(1) 調査対象時期等

①調査対象時期：平成29年7～9月期の実績(9月見込)平成29年10～12月期見通し

②調査期間：平成29年8月22日～9月1日 ※調査時点は平成29年9月1日

(2) 調査方法

①商工会の経営指導員等による訪問面接調査

②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。

(3) 調査対象商工会

①人口～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別枝幸町、安平町、鹿追町、更別村、弟子屈町

②人口10,000～29,999人・・・七飯町、斜里町、湧別町、新ひだか町、別海町

③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	51	48	94.1%	小売業	88	84	95.5%
建設業	50	45	90.0%	サービス業	111	107	96.4%
				合計	300	284	94.7%

(5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？

前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。

例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D Iは50-20=(+)30となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況(前年同期比、前期比の推移) ※D I値のみ

業種	前年同期比		前 期 比				今 期 比	
	今期	来期見込	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	今期	来期見込
製造業	▲ 18.8	▲ 18.2	▲ 2.4	▲ 24.0	▲ 31.0	▲ 7.3	▲ 7.1	▲ 13.0
建設業	6.7	▲ 2.5	2.7	▲ 2.5	▲ 5.4	7.1	11.2	▲ 4.6
小売業	▲ 33.3	▲ 28.7	▲ 41.1	▲ 26.9	▲ 48.7	▲ 32.4	▲ 21.6	▲ 25.3
サービス業	▲ 22.1	▲ 14.9	▲ 30.1	▲ 37.4	▲ 35.2	▲ 18.6	▲ 7.2	▲ 18.0

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業 主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前期比				
		今期	来期見込	H28. 10-12	H29. 1-3	H29. 4-6	今期	来期見込
業況	好転した	10.4	13.6	4.3	7.1	12.2	11.9	17.4
	不変	60.4	54.6	67.4	54.8	68.3	69.1	52.2
	悪化した	29.2	31.8	28.3	38.1	19.5	19.0	30.4
	D・I	▲ 18.8	▲ 18.2	▲ 24.0	▲ 31.0	▲ 7.3	▲ 7.1	▲ 13.0
売上(加工)額	増加した	25.0	12.5	27.7	8.5	35.6	31.3	
	不変	39.6	50.0	38.3	36.2	42.2	45.8	
	減少した	35.4	37.5	34.0	55.3	22.2	22.9	
	D・I	▲ 10.4	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 46.8	13.4	8.4	
資金繰り	好転した	4.2	2.1	8.9	4.3	0.0	4.3	
	不変	83.3	79.1	77.8	67.4	84.1	82.9	
	悪化した	12.5	18.8	13.3	28.3	15.9	12.8	
	D・I	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 4.4	▲ 24.0	▲ 15.9	▲ 8.5	
原材料仕入単価	上昇した	44.7	36.2					
	不変	55.3	63.8					
	低下した	0.0	0.0					
	D・I	44.7	36.2					
採算(経常利益)	好転した	12.5	8.3					
	不変	62.5	66.7					
	悪化した	25.0	25.0					
	D・I	▲ 12.5	▲ 16.7					

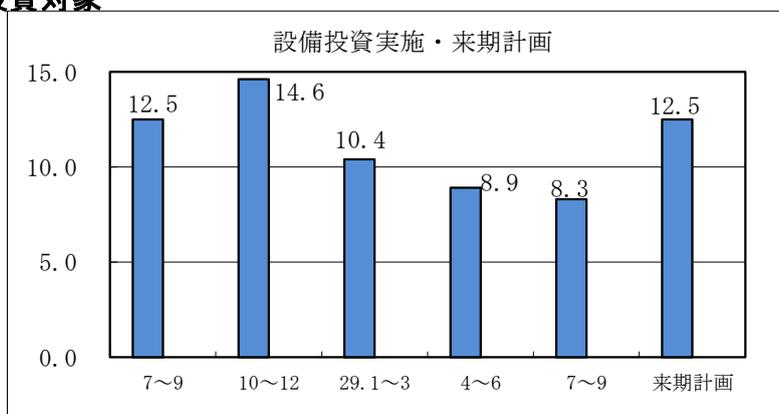
○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

回答48事業所の内、4事業所(8.3%)が実施。
 ● 生産設備=2事業所、● 車輜・運搬具、OA機器、福利厚生施設=各1事業所

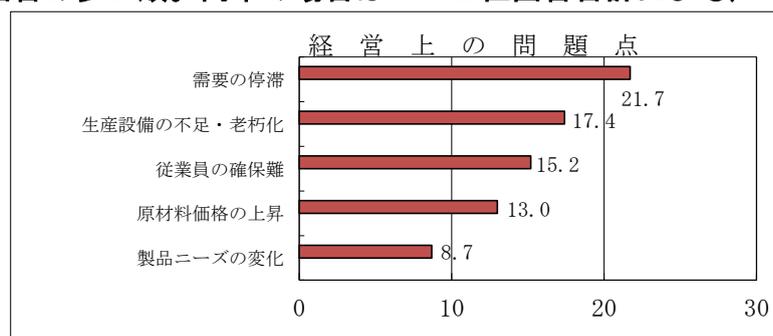
【来期計画内容】

回答48事業所の内、来期に6事業所(12.5%)が計画。
 ● 工場建物、生産設備=各3事業所、● 土地=2事業所、● 車輜・運搬具、OA機器、福利厚生施設=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

「需要の停滞」は前回と同様今回も1位だが、前回番外であった「従業員の確保難」と「製品ニーズの変化」が今回3位と5位となった。「生産設備の不足・老朽化」が前回3位⇒今回2位。「原材料価格の上昇」が前回2位⇒今回4位となった。



建設業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	H28. 10-12	H29. 1-3	H29. 4-6	今期	来期見込
業況	好転した	17.8	7.3	10.3	10.8	11.9	15.6	6.8
	不変	71.1	82.9	76.9	73.0	83.3	80.0	81.8
	悪化した	11.1	9.8	12.8	16.2	4.8	4.4	11.4
	D・I	6.7	▲ 2.5	▲ 2.5	▲ 5.4	7.1	11.2	▲ 4.6
完成工事 (請負工 事) 額	増加した	31.1	11.1	30.2	34.1	28.9	38.6	
	不変	51.1	71.1	37.2	26.8	48.9	52.3	
	減少した	17.8	17.8	32.6	39.1	22.2	9.1	
	D・I	13.3	▲ 6.7	▲ 2.4	▲ 5.0	6.7	29.5	
資金繰り	好転した	13.6	4.7	0.0	5.1	6.8	7.1	
	不変	81.9	86.0	92.9	84.6	88.7	92.9	
	悪化した	4.5	9.3	7.1	10.3	4.5	0.0	
	D・I	9.1	▲ 4.6	▲ 7.1	▲ 5.2	2.3	7.1	
材 料 仕入単価	上昇した	36.4	30.2					
	不変	63.6	69.8					
	低下した	0.0	0.0					
	D・I	36.4	30.2					
採算(経 常利益)	好転した	17.8	6.8					
	不変	62.2	75.0					
	悪化した	20.0	18.2					
	D・I	▲ 2.2	▲ 11.4					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

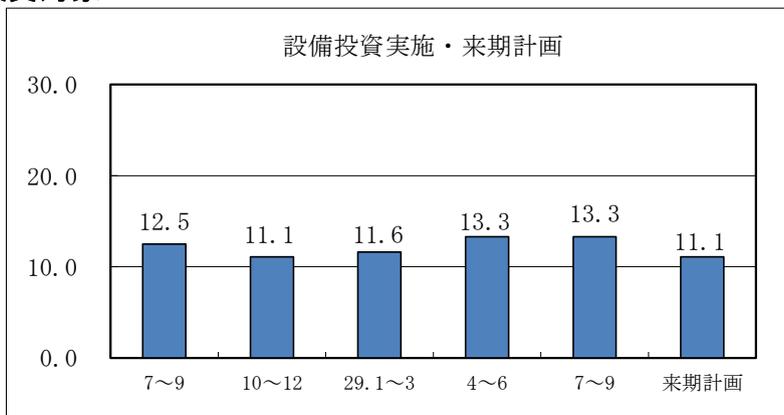
回答45事業所の内、6事業所(13.3%)が実施。

● 車両・運搬具=4事業所、● 建設機械=2事業所、● OA機器=1事業所

【来期計画内容】

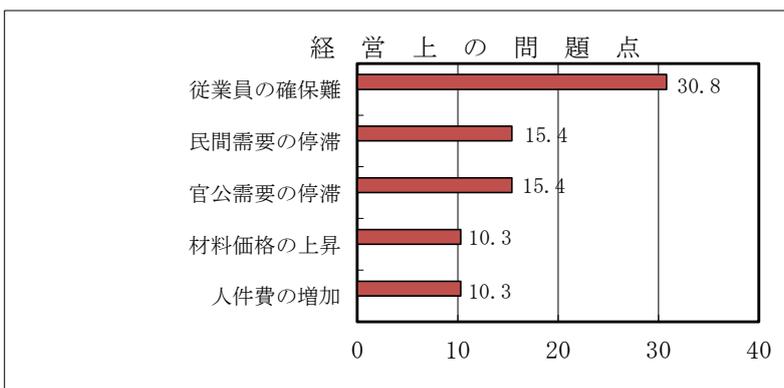
回答45事業所の内、来期は5事業所(11.1%)が計画。

● 建物、建設機械=各2事業所、● 車両・運搬具、付帯施設、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1~3位回答合計による)

今回調査で1・2・3・5位となった経営上の問題点は前回調査でも同位であるが、1位「従業員の確保難」は前回よりも7.7Pアップ、5位「人件費の増加」は前回よりほぼ倍増の10.3Pアップとなった。今回4位「材料価格の上昇」は前回は番外であった。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	H28. 10-12	H29. 1-3	H29. 4-6	今期	来期見込
業 況	好転した	6.2	1.3	9.0	2.7	2.7	5.4	3.8
	不 変	54.3	68.7	55.1	45.9	62.2	67.6	67.1
	悪化した	39.5	30.0	35.9	51.4	35.1	27.0	29.1
	D・I	▲ 33.3	▲ 28.7	▲ 26.9	▲ 48.7	▲ 32.4	▲ 21.6	▲ 25.3
売上額	増加した	15.7	8.4	34.5	15.3	17.3	28.0	
	不 変	39.8	48.2	23.8	24.7	38.3	34.1	
	減少した	44.5	43.4	41.7	60.0	44.4	37.9	
	D・I	▲ 28.8	▲ 35.0	▲ 7.2	▲ 44.7	▲ 27.1	▲ 9.9	
資金繰り	好転した	1.2	2.4	4.8	2.4	2.5	2.5	
	不 変	75.9	73.5	63.9	60.7	76.2	78.7	
	悪化した	22.9	24.1	31.3	36.9	21.3	18.8	
	D・I	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 26.5	▲ 34.5	▲ 18.8	▲ 16.3	
商 品 仕入単価	上昇した	22.9	12.2					
	不 変	74.7	82.9					
	低下した	2.4	4.9					
	D・I	20.5	7.3					
採算(経 常利益)	好転した	6.0	1.2					
	不 変	61.5	68.3					
	悪化した	32.5	30.5					
	D・I	▲ 26.5	▲ 29.3					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

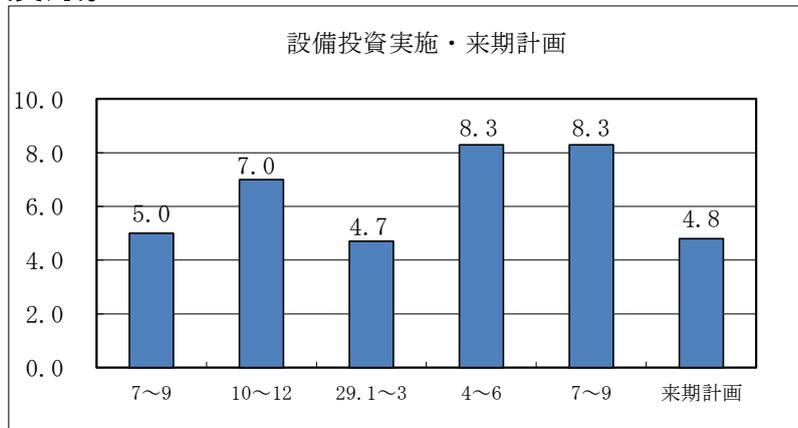
回答84事業所の内7事業所(8.3%)が実施。

- 車輜・運搬具=3事業所、● 販売設備、付帯施設=各2事業所、
- 店舗、OA機器、その他=各1

【来期計画内容】

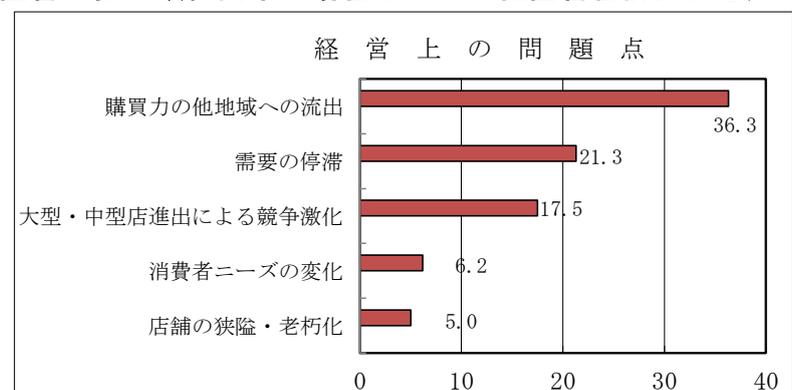
回答84事業所の内、来期は4事業所(4.8%)が計画。

- 付帯施設=2事業所、● 車輜・運搬具、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

今回の調査結果では、1位～5位まで、問題点も順位も前回の調査結果と全く同じであった。その中で3位「大型・中型店進出による競争激化」が4.7Pアップ、5位「購買力の他地域への流出」が微増の他は約2～4P程度減少した。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	H28. 10-12	H29. 1-3	H29. 1-4	今期	来期見込
業況	好転した	9.6	6.9	3.3	3.3	11.3	12.4	7.0
	不変	58.7	71.3	56.0	58.2	58.8	68.0	68.0
	悪化した	31.7	21.8	40.7	38.5	29.9	19.6	25.0
	D・I	▲ 22.1	▲ 14.9	▲ 37.4	▲ 35.2	▲ 18.6	▲ 7.2	▲ 18.0
売上(収入)額	増加した	18.7	11.4	12.1	9.0	26.7	23.8	
	不変	39.3	57.2	47.5	47.0	35.2	44.8	
	減少した	42.0	31.4	40.4	44.0	38.1	31.4	
	D・I	▲ 23.3	▲ 20.0	▲ 28.3	▲ 35.0	▲ 11.4	▲ 7.6	
資金繰り	好転した	4.8	2.9	0.0	1.0	4.9	6.9	
	不変	76.2	79.6	77.9	79.6	73.5	78.2	
	悪化した	19.0	17.5	22.1	19.4	21.6	14.9	
	D・I	▲ 14.2	▲ 14.6	▲ 22.1	▲ 18.4	▲ 16.7	▲ 8.0	
仕入単価(材料等)	上昇した	37.9	29.4					
	不変	54.3	65.7					
	低下した	7.8	4.9					
	D・I	30.1	24.5					
採算(経常利益)	好転した	7.5	5.8					
	不変	60.4	65.4					
	悪化した	32.1	28.8					
	D・I	▲ 24.6	▲ 23.0					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

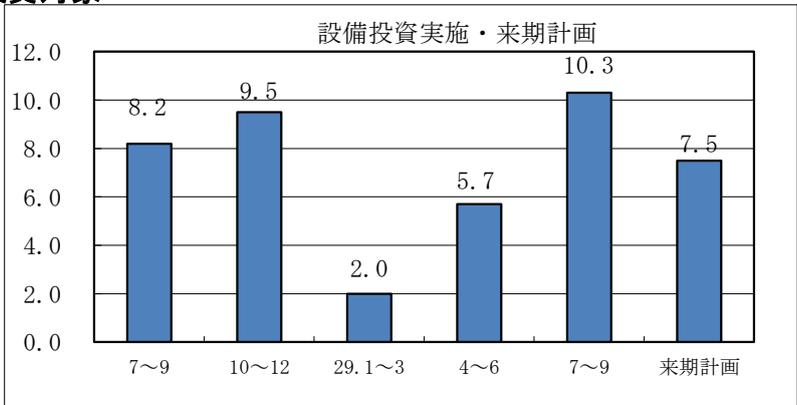
回答107事業所の内、11事業所(10.3%)が実施。

● 車輜・運搬具=4事業所、● 建物=3事業所、● サービス、OA機器=各2事業所、● 土地=1事業所

【来期計画内容】

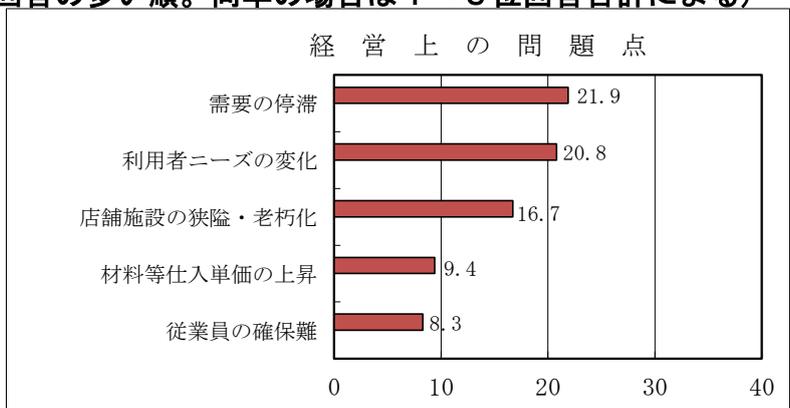
回答107事業所の内、8事業所(7.5%)が計画。

● 建物=4事業所、● 付帯施設=2事業所、● 土地、サービス、車輜・運搬具、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

今回の1位から5位は、前回も順不同ではあるが全て5位までに入っていた。その中で、前回1位「店舗施設の狭隘・老朽化」が6.7P減で今回3位、前回2位「需要の停滞」が0.4P減だが今回1位に、前回4位「材料等仕入単価の上昇」は3.4P減だが今回も同位。前回3位「利用者ニーズの変化」が3.8Pアップで今回2位、前回5位「従業員の確保難」が今回も同位だが1.9Pアップしている。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

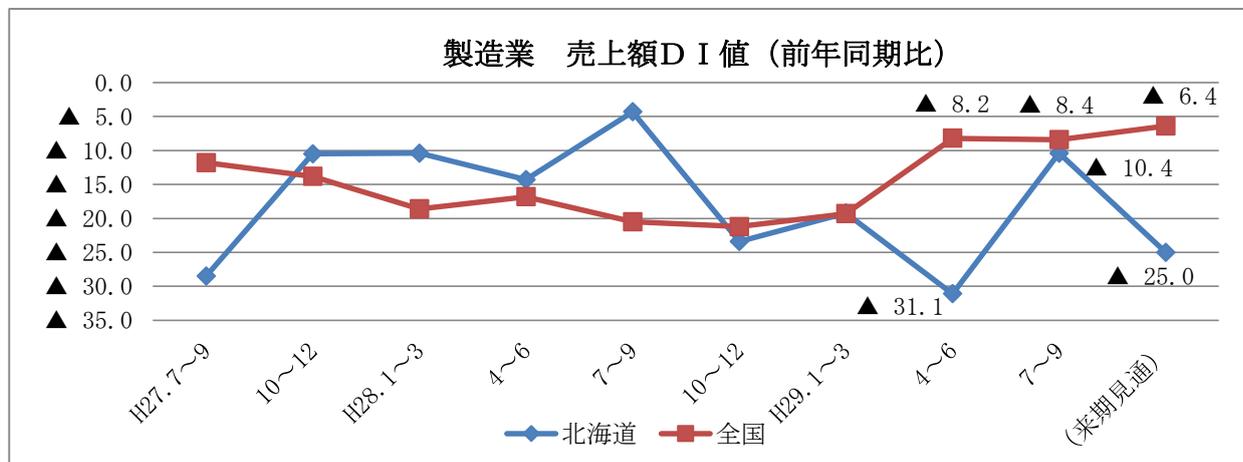
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業 ≪最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減≫

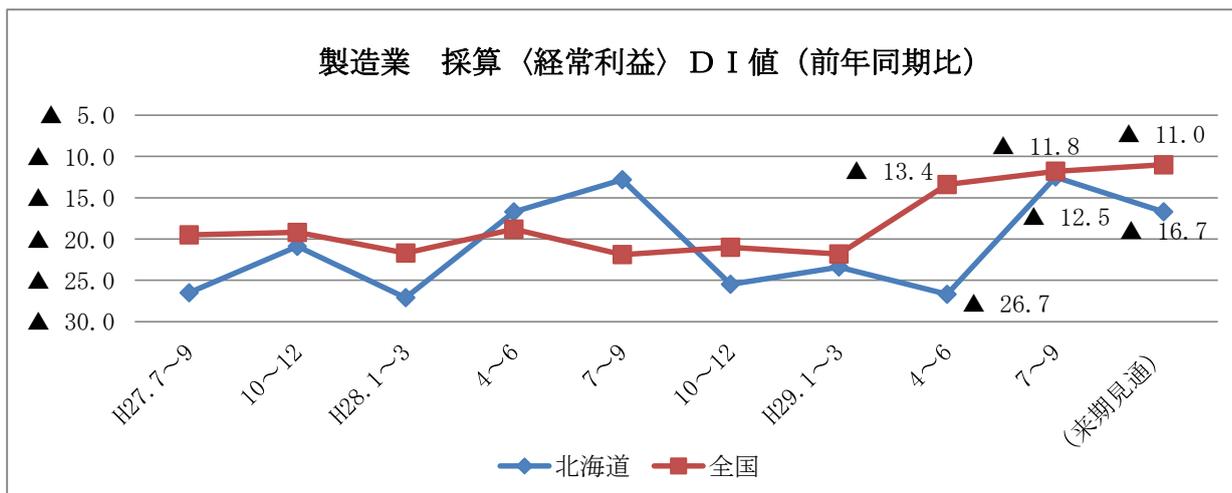
【北海道】今期調査の(売上額)・(採算)・(資金繰り)▲DI値は、全て前期調査と比べて大幅減少(改善)したが来期はまた大幅増加(悪化)見込となっている。

【全国】最近の(売上額)・(採算)・(資金繰り)▲DI値は、全て減少傾向(改善)で推移している。

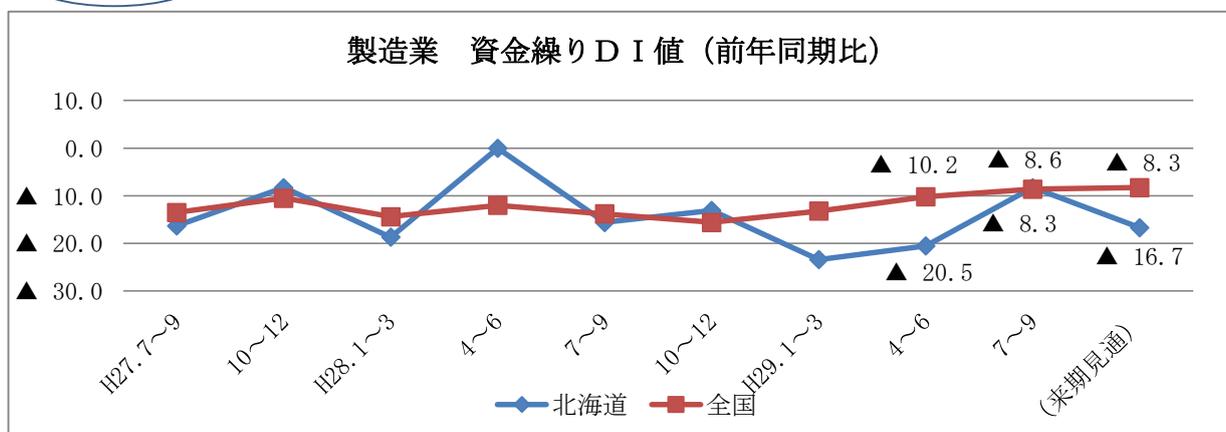
売上額



採算



資金繰り



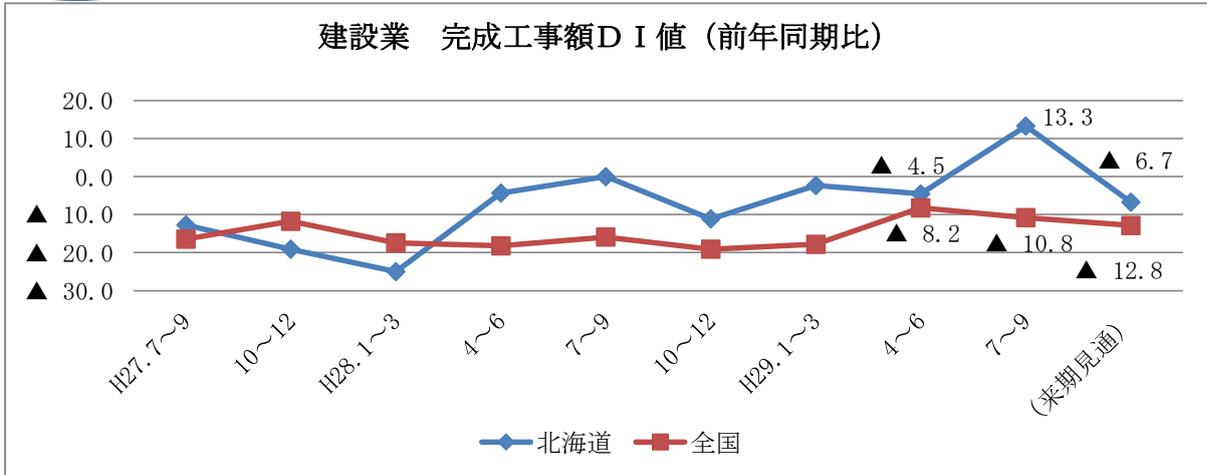
建設業

《最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減》

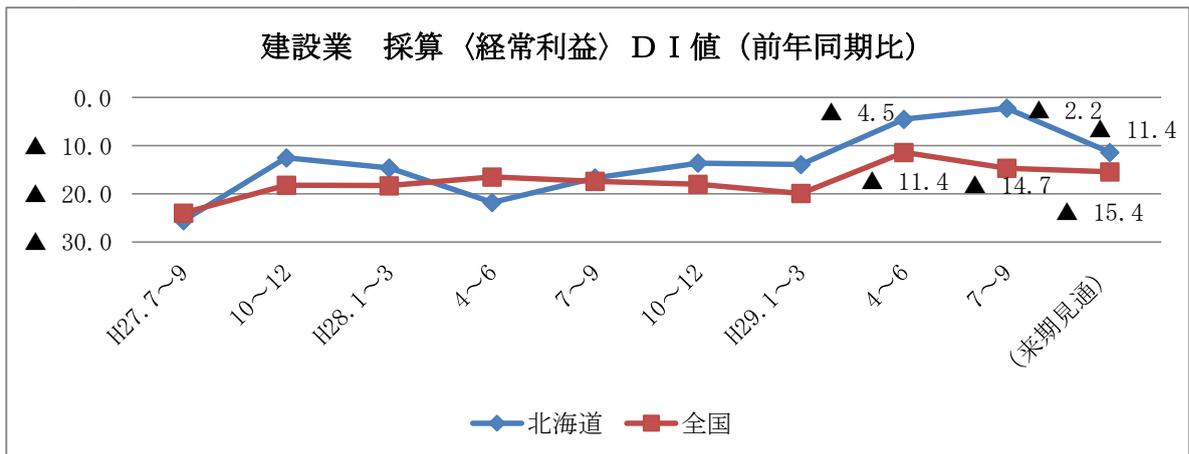
【北海道】今期調査の(完成工事額)・(採算)・(資金繰り)▲DI値は、全て前期調査と比べて大幅減少(改善)したが、来期は再度増加(悪化)見込となっている。

【全国】今期調査の(完成工事額)・(採算)・(資金繰り)▲DI値は、来期見込みまで、全て増加(悪化)傾向にある。

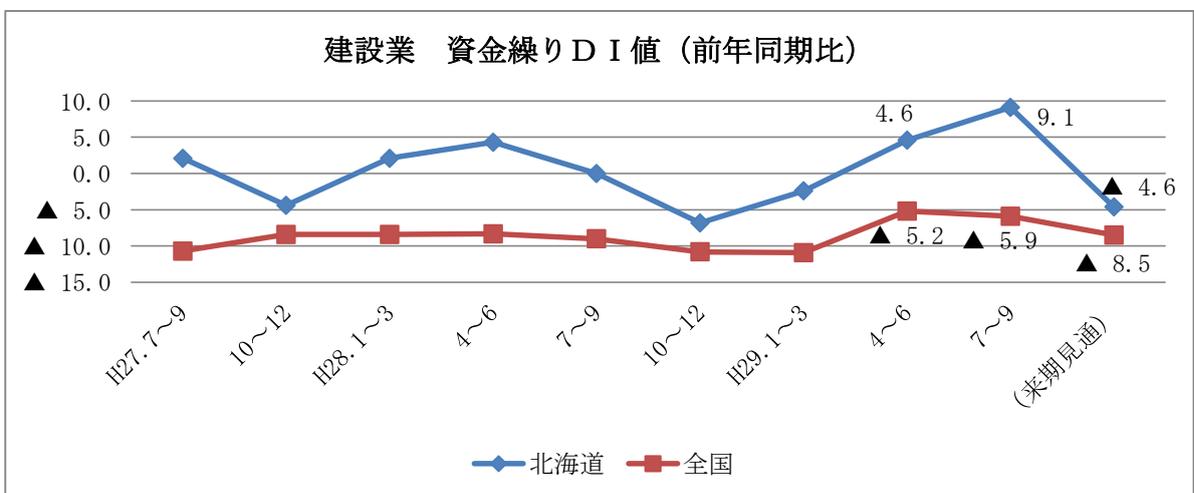
完成工事額



採算

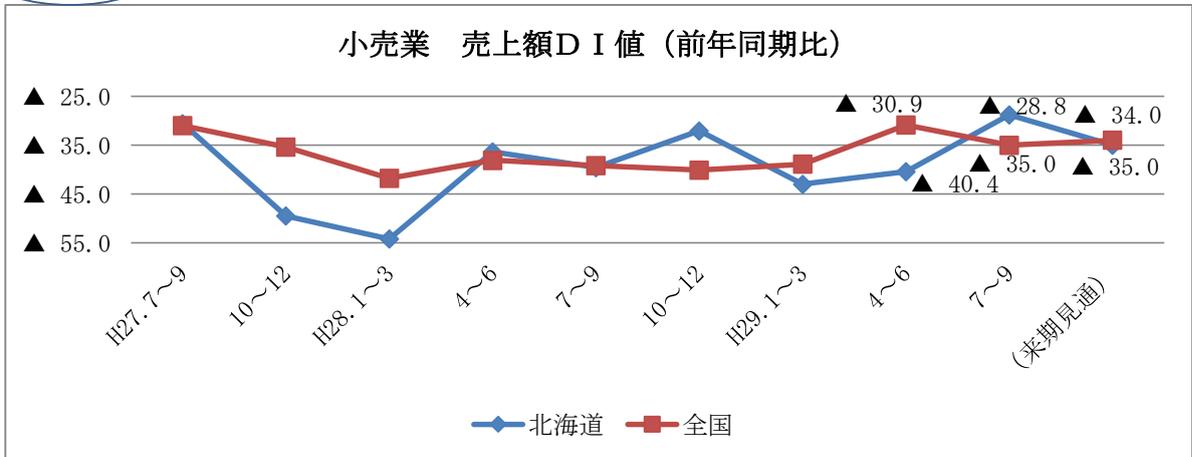


資金繰り

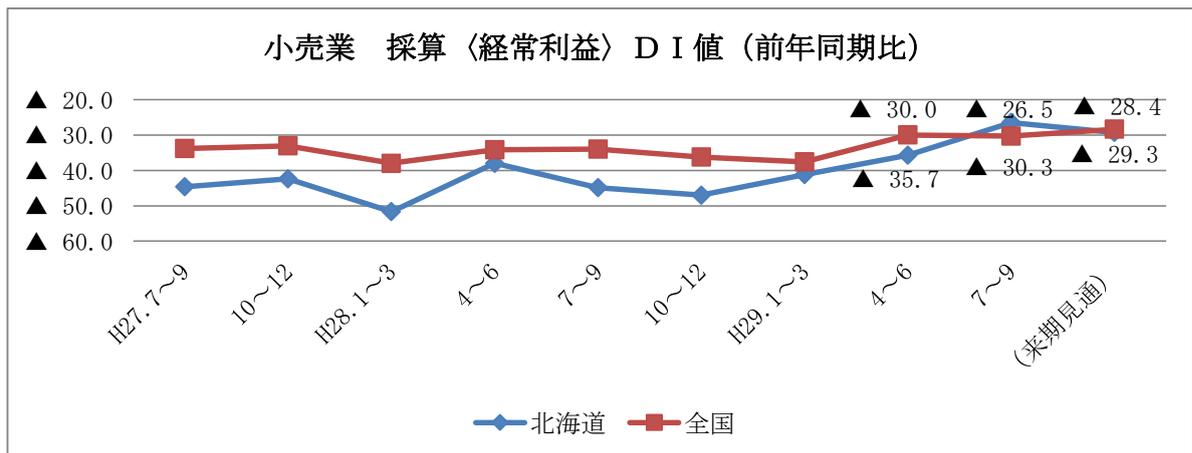


小売業 ≪最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減≫
【北海道】 今期調査の(売上額)・(採算)▲DIは、全て前期調査と比べて大幅減少(改善)したが、来期はまた増加(悪化)傾向見込。(資金繰り)▲DI値は若干増加(悪化)傾向にある。
【全国】 今期調査の(売上額)▲DI値は増加(悪化)⇒来期ほぼ横這い見込み、(採算)・(資金繰り)▲DI値はほぼ横這い傾向にある。

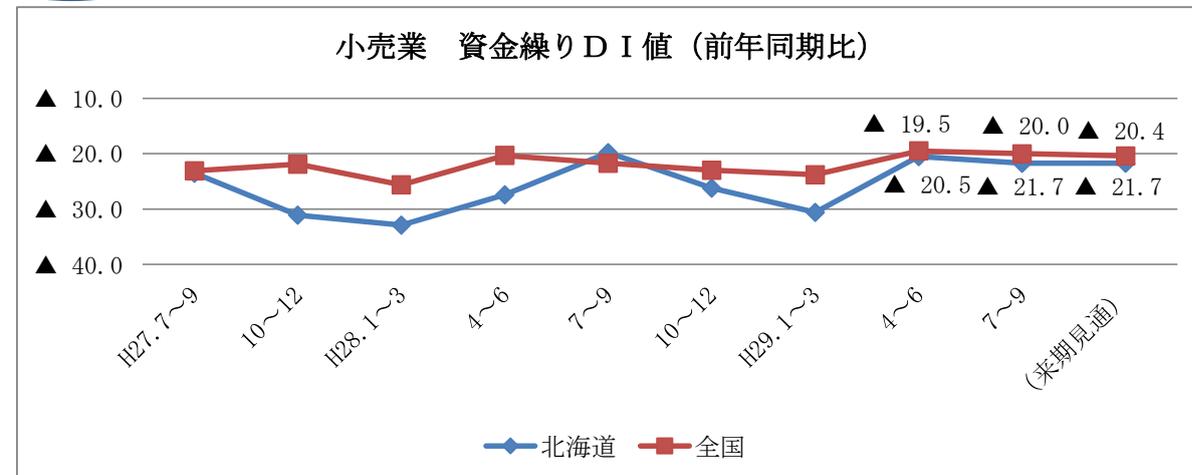
売上額



採算



資金繰り



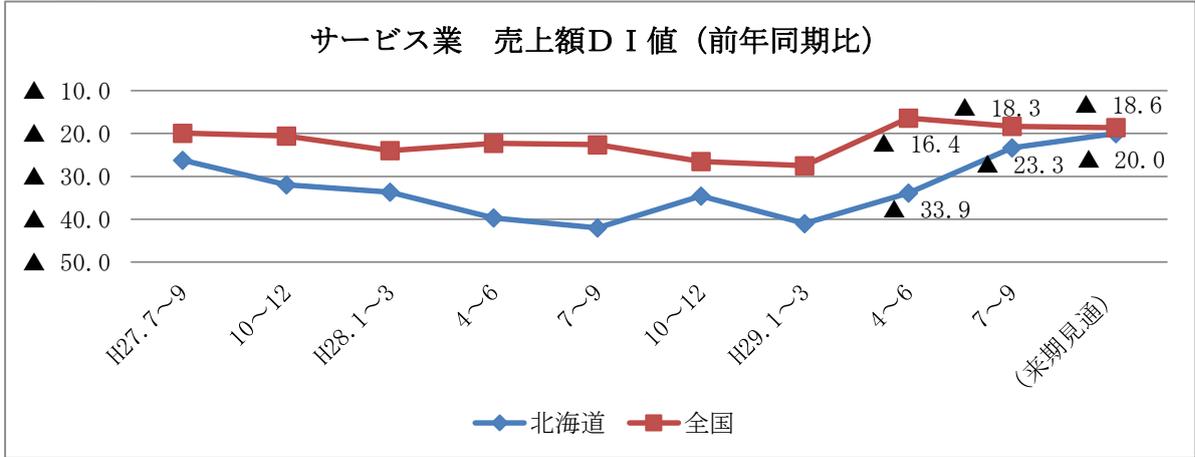
サービス業

《最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減》

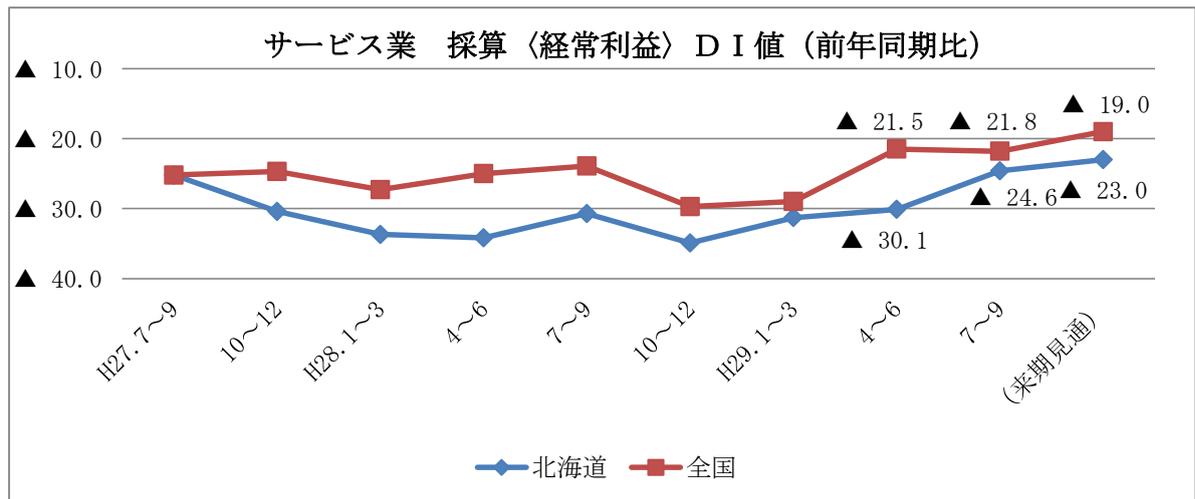
【北海道】今期調査の(売上額)・(採算)▲DIは、来期見込まで減少(改善)傾向、(資金繰り)▲DI値は今期減少(改善)⇒来期はほぼ横這い見込み。

【全国】今期調査の(売上額)▲DI値は、増加(悪化)⇒来期はほぼ横這い見込み。(採算)・(資金繰り)▲DI値は、微増(悪化)⇒微減(改善)見込みとなっている。

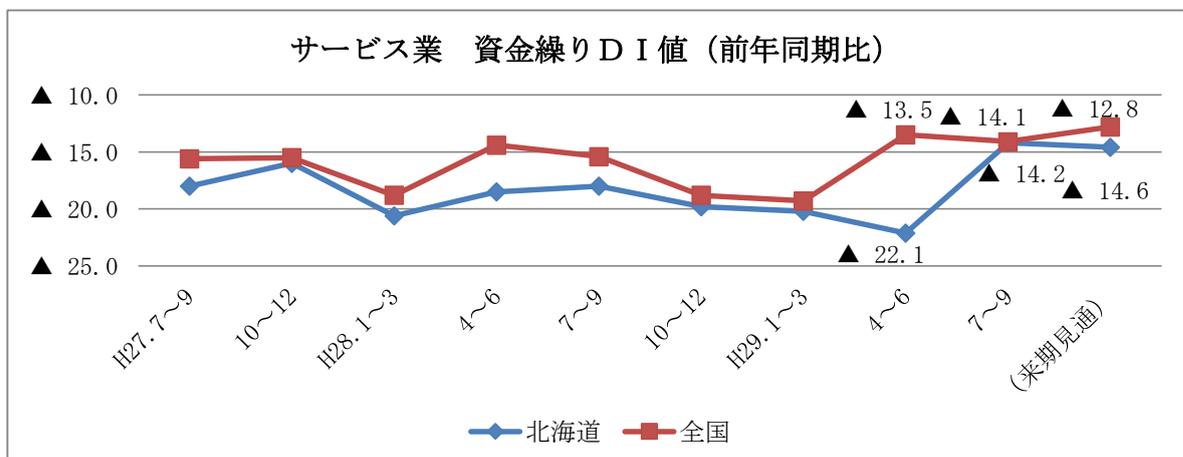
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>●次年度、「道の駅」が近くにOPENすることで、人の流れが変わると思われる。また、同じ商店街の繁盛店が営業日数を削減したことで顧客数が減少したと思う。これらは、今後の営業に大きな不安がある。●常に仕事があればいいが、どうしても浮き沈みがあるため安定しない。今後の課題だと思う。●来客数・売上金額に変わりなし。●安定した天候におけるソバの収穫量が昨年度より増える見通し。イベント関係も数字が見込める。●売上げが厳しい。●減船により、水揚げされる魚が極端に少なく、9月の操業に不安がある。</p>
建設業	<p>●燃料等の値上りが今後懸念され、経費の増加が利益に影響される。●今期においては、7月は日照時間が良かったこともあり、工事の進捗も滞りなく進んだものの、8月に入ってから長期雨天等の天候不順による工期の遅延が見込まれる為、8～9月の売上と利益の確保が困難であると予想される。●去年の台風の影響で人件費、材料費、下請価格が上昇しているのので、採算が悪化しつつある。●人手不足の深刻化が更に進み、それによって、工事の受注をできないケースが出てきた。更に従業員の高齢化によって技術の継承という問題も生じてきている。どのような対策が必要か迷っている現状だ。</p>
小売業	<p>●地域に人がいなくなった。このままでは、地域がダメになる。●近年、新聞を購読しない人が増加している。●特に変わらず。今までどおり時代の変化に対応しながら努力していきたい。●地域経済の現状分析、特に観光経済の地域循環性の状況把握がなされていない。それは商工会、観光協会が取り組むべき大きな課題である。●客単価の低下が続いている。●7月初めの暑さですっかり季節感が変わってしまい、同月の商工感謝祭も、店舗前のイベントであるにも関わらず恩恵がなかったし、参加人数も少ない様だった。8月に入っては、30度超えの日がなく、連合売出しも不調であった。●顧客の高齢化。●店舗での販売が減る一方で個人の物販店としては経営が難しいレベルにある。●8月の悪天候により、夏物衣料が良くない。</p>

サービス業

●地域に人がいなくなっているため、顧客も減っている。●仕入価格の上昇、人件費の上昇により利益の確保が難しくなっている。●来店客数の減少が大きく、固定客の来店サイクルも長くなり売上が減少している。●新規参入業者が増え、顧客が分散しているように思う。また、夏休みとそれ以外の月の利用客数の差が大きいためスタッフ人数の確保が困難である。●店舗の老朽化と事業主の高齢化、顧客の高齢化。●高齢者の方々が外出することに対して面倒に感じてきているようだ。昔みたいに、「お盆だから」、「お正月だから」といったイベントに合わせて調髪をするということが減った。顧客のニーズが変わり、髪の毛への負担になる施術に抵抗感が出てきた。●天候の影響、近郊の低価格店舗の出店で、売上苦戦。●経済情勢の回復の見込みがない。●軽種馬の状況が良くなっているため、全体的には良い方向に向かっていると思う。軽種馬関係は12月までが勝負であるため、牧場関係に営業をかけると良いと思う。●昨年の台風による影響が大きい。建設関係が多忙であること、建設機械が不足していることなどが好転の原因になっているのでは……。●従業員の高齢化も進んでおり、作業効率を上げるために設備投資も考えている。●従業員等の確保も含め、需要に対応する体制が出来ず、売上の減少につながっている。受注においては、現在にて受入が出来る体制ではなく、販路拡大には難しい状況である。利益率の低下も今後の課題である。●休業になる為、仕方ない状況だと思っている。再開時に向けて新たにお知らせして集客に繋げていきたいと考えている。●悪いなりに安定している。農業の契機の良さが反映していると思う。後は消費税アップ後がとても心配で、消費は落ち込むと思う。